

福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース



発行 (財)第五福竜丸平和協会
〒136 東京都江東区
夢の島3-2
都立第五福竜丸展示館内
電話 03-3521-8494

今年、ビキニ被災40周年の三・一ビキニデーに来日したジョン・アンジャイン氏(ビキニ水爆実験の時死の灰を吸ったロンゲラップ島の村長)は当時の状況を生々しく報告し、「八六人の被曝者の内今年の一月までに三一人が死にました」とのべるとともに「四〇年前に水爆実験の死の灰を吸ってから私たちがまだ故郷の島ロンゲラップに帰ることができないのです」と証言しました。また昨年、日本原水協は全国十三カ所で核兵器廃絶をめざして「広島・長崎の被爆と世界の核実験被害告発の国際シンポジウム」を開催しました。その最後が三月一二日、三浦市三崎魚市場大会議室で開かれたシンポジウム。三崎の人々は忘れていませんでした。四〇年前ロンゲラップの島民とともに三崎船籍のマグロ漁船一五〇隻余が被曝し、捕れたマグロは「原爆マグロ」として廃棄処分され、死の灰を浴びた船員はひどい仕打ちを受け、三崎の町中が怒りにふるえたことを。神奈川県下十七地方自治体が賛同し、地元三浦市長と、当時のマグロ船員も参加して開かれたこのシンポジウムは、一五〇人の予定が二五〇人も参加し大

ロンゲラップ島民の訴えにこたえたい ——マーシャル交流連帯代表団の派遣——

永沢 丈夫

成功をおさめました。このシンポジウムにロンゲラップ島民代表ネルソン・アンジャイン氏が参加し、四〇年たったいま人々を、特に子どもをむしばみつつけている放射能被害について報告し、「私たちが助けて下さい。日本の医者をおくって下さい」と訴えたのです。しかも許せなかったのは、加害者であるアメリカが四〇年間毎年、医者を送ってロンゲラップ島民を「診察」し「観察」しつづけて、島民のための治療はしてこなかったことです。膨大な観察記録を持ちながらいまだにそれを公表していないことです。それはまぎれもない人体実験です。この事実に対してこれまで、いくつものすぐれた告発書や告発の写真が発表されてきました。マスコミでの報道もありました。しかしアメリカは沈黙を守っています。そして圧倒的な日本の人々がこの事実を知らされていません。私たちの運動は始まりました。世界の核実験被害者を、マーシャル・ロンゲラップの核実験被害の実相を世界に知らせよう、核実験被害者と核兵器の緊急廃絶、ヒロシマ・ナガサキからの

アピール署名全世界十億を集める運動でいっそうの共同と連帯を強めよう。来年は広島・長崎被爆50周年です。一九九五年七月三十一日(八月一日、二日の三日間、日本で「広島・長崎の被爆、世界の核実験被害告発」のシンポジウムが国連NGOと日本の運動体との共催で開かれることが決まりました。このシンポジウムにロンゲラップの核実験の実相を可能な限りすべて持ち込まなければならぬと考えています。今年の十一月二〇日から十二月四日まで全国から参加者を公募して、運動家、医者、科学者、化学者、専門家も含め三〇名の代表団をマーシャルに送ります。そしてメジャット島、イバイ島を中心に核兵器廃絶のための連帯と核実験被害実相追及に全力をつくします。四〇年たったいまロンゲラップの子どもたちにどういう被害があらわれているのかを世界に告発しなければなりません。人道に決してゆるさずにはならないアメリカの仕打ちを白日のもとにさらさなければなりません。大変な運動です。お金もかかりません。しかしビキニ被災40周年になんとしてもやりとげなければならぬ運動だと確信しています。どうぞみなさんの心からの連帯とご支援をお願いする次第です。(原水爆禁止神奈川県協議会事務局)



第五福竜丸で平和を語る……熱演のみなさん

子どもを連れて来館のお母さん、お父さんのさかな拍手、テレビ局のライトもあびて、司会役の中村博氏はじめ、ぎょうはひとしお気持ちが入りました」と熱演。こどもたちも、吸いこまれるように聴きいりました。「親しまれる会になつてまいりました。来年も開きたいと思えます」と世話役の堀田てる子さんは抱負を語りました。

船とともに紙芝居、絵本童話の朗読

第三回を迎えた「平和を語る第五福竜丸の集い」は、午前・午後、船尾下に敷いたシートに七〇人余がすわって開催。永沢丈夫神奈川県原水協事務局局長がロンゲラップの被曝者の現状と連帯の意義、今秋予定されている支援団の派遣計画について一時間余講演しました。

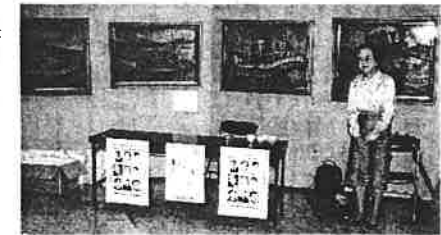
た。被曝者の代表挨拶につづき、演壇の後に展示されている江東区の画家、故川上貫一さんの「廃船」の絵を前に夫人の川上照子さんが「多くの人たちに見ていただき、夫も喜んでくれると思います。平和のために私もできることをしていきたい」と挨拶しました。



船尾下では学習会も

今年には森洋さんの俳句が最優秀作となりました(当日の献句は三面)。沖の色竜胆愛吉さんへ積む

午後平和と軍縮をめざす全国連絡会がよびかけた学習会。ジャーナリストの岩垂弘氏がビキニ事件の意義と原水爆禁止運動の歴史と課題について語り、大石又七さん、協会から本多喜美副会長、斎藤鶴子さんも参加しました。



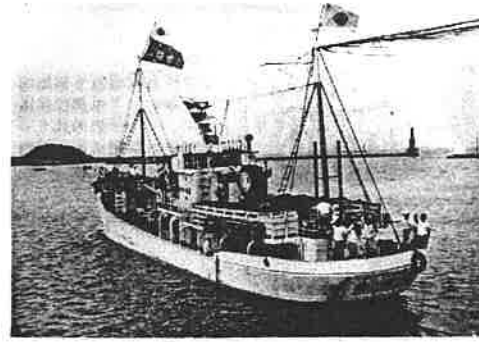
連作『廃船』の前で語る川上照子さん

ヒバク漁船・尾形海幸丸のこと ——ビキニ水爆実験四〇周年に寄せて——

小田 純市

本年八月八日(十二日)まで、酒田市役所ロビーでささやかなヒロシマ・ナガサキのヒバクパネル展が催されたが、そこに見慣れぬ一隻の漁船「尾形海幸丸(一五四・五九七)」が飾られた。

期間中に訪れた市民は、それが今から四〇年前に起こったビキニ水爆実験でヒバクした、それも足元にあった庄内の漁船である事を知り、静かに見入る光景が続いた。



大漁旗をかかげ三崎港を出港する尾形海幸丸

同船は第五福竜丸とは僚船であり、「福竜」「海幸」と互いに呼びあう仲。一九四七年十一月、期待を一身に集め静岡清水市で完成進水。そして連続五回程、漁獲競争第一位を占め全国にその名を馳せる。が、同実験のため栄光の座は一転翌五五年同社は廃業。以降売船され数社を転々とする流浪の旅を歩み、遂に六四年末廃船解体されて十七年の波瀾の歴史を閉じた。

我々が同船パネル展示を企画したのは多少なりとも同船関係者の語るに余りあるその思いに学び、足元のヒバクの史実を継承し平和運動強化に繋ぎたいと思ったからである。確かに我々は「あつい夏」に反核平和の火リレー、平和友好祭、ヒロシマ子供平和使節団や原水禁世界大会派遣、平和集会、学習・交流会、街頭宣伝等を取組んでいるが、平和行政一つみてもなお運動の不足を痛感している。さて同船の追跡調査は一九八八年、「庄内地区高校生平和の集い」



酒田市役所でパネル展示

で以前からヒバク漁船を追い続ける高知の「幡多高校生ゼミナール」からその報告書を渡された際、「太か船のおとね」と山形県加茂(船籍地)を指して言われたのをきっかけとする。以降、世話人の菅幹雄、小泉美英子両先生らのアドバイスを受けながら調査を続け、当時の元船長・本田昭一氏宅に辿り着く。「よく調べているなあ」と本田に感心しました」と本田氏はその時を語る(「朝日」山形版八九年八月二〇日付参照)。即ち同船調査の先鞭はヒロシマの実相に学んだ高校生達と平和教育に打込む先生達の共同研究として着手されたという特徴を持つ。(なお、筆者はこの貴重な資料を土台に「キャッスルシリーズ一九

五四)や当時の地元新聞、関係文献等を重ね併せて調査中だが海面上との差異があり、その全容を述べる迄に到っていない)。
同船ヒバク概要のポイントは、(1)二月二日(四月一四日)三時までの航海中、三回の実験(三月一日、二七日、四月七日)が行われた事、(2)三月一日は福竜丸の直近にあり、網を入れた後に実験時間時は仮眠中だったが故に難を免れ得たこと、(3)航海操業中は他船と連絡を取りあって異変に気付いてはいたが、その意味は皆目不明で会社指令でただ毎日あらゆるものを洗い続けた事、(4)帰港しての検知結果は何と一、〇〇〇カウント(東京最大)と出てその恐ろしさを初めて知った事、等々である。本年の同パネル展終了数日後、本田氏へ当時以来の三崎の友人から電話があり、あれこれと語り合ったという。今に残るはエンジンと写真五枚のみだが、青々と続く環礁の海原で乗組員が心を一に汗し、自信と誇りに満ち溢れて大漁旗をかかげた海幸丸の雄姿は今なお関係者の心に息づいている。同船パネルの展示は四〇周年の思いを抱いて明年のヒバク五〇周年記念に向けた第二の船出でもあった。(山形県飽海地区平和センター)

改めて知る「第五福竜丸」

泉 昌江

今年には第五福竜丸のビキニ被爆から四〇年目にあたります。新聞等でビキニ事件40周年にちなんだ特集記事を見かけるようになり、事件に関する新事実が発表されたりははじめました。

東大島図書館では毎年夏になると、戦争をテーマにした展示をおこなっています。ビキニ事件は時期こそ違え、第二次世界大戦から続く冷戦構造と核武装の動きのなかで起こった事件であり、戦争と平和とを考えるうえで重要な意味をもつこと、また第五福竜丸展示館が江東区内にあり、地域とのつながりもあつることなどから、今年

の夏のテーマ展示に取り上げることになりました。

江東区内の図書館にある図書や当時の雑誌記事を集めていくと、東大島図書館所蔵の資料が少ないことに気づかれました。まだ開館三年目の図書館のため、出版年の古い資料は買い漏らしたのもあります。展示期間が迫っていることもあり、普通に書店発注しているでは展示が終わってしまう、とありえず他館の資料でしのぐか、などと考えているうちに、第五福竜丸平和協会の存在に気づきました。ここなら第五福竜丸関係の資料をたくさんもっているに違いない

い、目録などがあれば展示資料としても使えるかも、と都合のいい考えで問い合わせをしました。その結果、目録こそなかったものの、パネルを貸していただけることになり、担当者二名で協会事務所の第五福竜丸展示館に赴きました。

展示館では図書資料をはじめ、パンフレットや新聞記事のコピーなどの資料が充実しており、その場で購入してきました。パネルを借りる際に、事務所の方から、購入できない図書はいくつかについては、そちらも貸していただけた。資料とパネルを抱えて図書館に戻るとき、梱包されたパネルに熊本かどかかの宅配シールが貼ってあるのに気づき、「全国をまわっているんですね」としみじみして

第十四回久保山忌句会献句

早い百日いま秋霖に碑の愛吉
石川貞夫
久保山忌に来てユウカリの花に逢う
内田秀子
シルバースhirtボタンふれてしまつた愛吉忌
川村志青
忌を悼む焼津へ帰燕飛行中
小林道夫

被爆船まで早雨経し百日草

鈴木節子
死の灰いまも少女に六本目の指が
田中千恵子
福龍丸へみな仰向いて透き通る
とべらの実青し愛吉の海ひろがる
田中夕霞
死の灰を溜めて船板朽ち行く秋
徳富桑園
一四ヒカエル福龍丸と添い寝の薔
樋口素秋

薇
沖は自由コスモスが添う被爆船
吉田 海

福龍丸の外に秋悪しき税近づく
本橋愛子
沖のいろの竜胆愛吉さんへ積む
森 洋
羽虫に耳論されビキニの船底に
森 白樹
電車が口笛ふいて新木場へ久保山忌
吉村紅鳥

しまいました。

こうして集めた資料に目をとおしていくと、自分がこのことについていかに知らないでいたかを痛感させられました。私自身は江東区に住んで二〇年、学校で見学してきたこともあって第五福竜丸については知っていたつもりでしたが、改めて知る事実の多さに衝撃を受けました。事件当時の記事から知る第五福竜丸のこと、実際に水爆を落とされたビキニ周辺の人々のこと、その当時この海域で漁をしていた他の漁船とその乗員のこと。これはビデオ(「ビキニの海は忘れない」これも協会で紹介されました)で初めて知りませんでした。

図書館での展示は「ビキニ被爆と第五福竜丸」というタイトルで二週間行いました。立ち止まって資料を手取る人、パネルをながめる人、展示の最終日に行なったビデオ上映会にも参加者があり、この展示は概ね好評であったと思います。身近にありながら、かえってそのために知ることの少なかつた第五福竜丸について、改めて気づかせてくれるよい企画になったと思います。この企画で一番勉強させてもらったのは、担当をした私自身かもしれません。(江東区東大島図書館)